

ベジフル SAGA (2024 年11 月号) ～ブドウ栽培管理～

本年産の収穫・出荷が終わり、次年産に向けた管理作業に取り組まれていることかと思
います。

本年産の課題を振り返り、次年産の目標や生産計画を立て作業に取り組みましょう。

○かん水

本年産も、夏季の高温乾燥により果粒肥大不足や脱粒・軸枯れによる商品性の低下が見
受けられました。どの品種であっても、気象条件に左右されない生産を実現するため
は、生育期のかん水は不可欠ですので、重要な栽培管理として意識的に取り組むよう努め
てください。また、収穫後の乾燥は次年度の樹体生育と果実生産に大きく影響します。秋季
のかん水を習慣化し貯蔵養分蓄積を促しましょう。

今月の気温が例年より高い場合には、落葉時期も遅くなることが予想されます。落葉す
るまでは降雨状況を確認し、過乾燥とならないよう状況に応じてかん水を行いましょ
う。

○病害対策

病気が発生した園地では、落葉や園内に残った果実を園外に持ち出して処分するか土中
へ埋めて、病原菌を越冬させないように対応してください。

特に、巻づるは晩腐病等の越冬場所になるため、必ず除去してください。

○ハウスの省エネ対策と加温時期の検討

ブドウのハウス栽培（加温型）においてA重油の高騰は、コスト高に直結し深刻な問題
となっています。

以下のことを実施しながら、また生産者間で情報共有をしながら、コスト削減に取り組
みましょう。

〈検討例〉

- ・加温した空気を冷やさない

三重カーテンやサイドビニル、エアマットの設置

- ・ハウス内の気密性を高める

ビニルの継ぎ目や谷間、地際に隙間が生じていないか点検、補修

- ・収益性の向上

品種、加温時期等の検討（加温コストに見合っているか）

○品種更新

巨峰は、8月中旬以降（盆後）の販売は単価が不安定なため、高樹齢で収量が上がらず、着色が悪い樹については、優良な品種への更新を検討してください。

品種の導入については出荷時期や栽培体系への適応、本県での栽培適性が重要な判断材料となりますので、産地の担当技術員と早めに計画を立て、更新を進めてください。また、人気のある品種は早く売り切れてしまいます。苗木業者が生産計画を立てる前に予約を入れて苗木を確保しておきましょう。